

佛道手引草

下

雨台之語

佛道手引草卷乃下

佛狗子達

金光明經云心も過去も天自在光王の國に  
流水長者といふに以て方藥成て  
も法く此病とてやうに病を治すも  
一切衆生を治すやうに病苦成てくも  
樂を成てくも此の如く天自在光王の國に  
よるは二子ありて此の如く

二天氏はきりぎりす一池のくさばはよひもふ日くさば小  
かゆきて其水枯涸を池乃うらちもはばくは魚  
をばくはばくはのわも十千のゆきと見たりんす  
すはば見たり流氷長者はゆきも大慈慈徳かた  
ゆき大樹乃七也よひゆき枝葉成るゆきを  
其池とわたりゆきも天自在光玉八もゆき  
ゆき二十頭の大家成りゆきもゆきもゆき  
城中乃人か皮囊とわたり河の内もゆきも皮囊と

水成りて二十代家よのゆきも林樹乃池のゆきを  
水とゆきも水成りゆきも長者も二十代  
ゆきもあひ池乃ゆきもゆきもゆきもゆきも  
岸成りゆきも長者もゆきも此魚も水成りゆきも  
救せゆきもゆきもゆきもゆきもゆきもゆきも  
ゆきもゆきもゆきも一象成りゆきも我家ゆきもゆきも  
食物成りゆきも象ゆきもゆきもゆきもゆきもゆきも  
ゆきもゆきもゆきもゆきもゆきもゆきもゆきも

のちうへにふたふた未だ其法地獄をたひ下しむりて  
 經中亦てく衆生の命なりとはし時寶勝如來は  
 未だ其法を付く天上より生れを我に言ふは十千九  
 魚乃と其人多し二因縁成せし時寶勝如來の  
 人なりと稱説をてしと信りて二子せども十二  
 因縁成りて寶勝如來にふたふたと稱説成りて  
 善因ふたふた十千九魚いのちと信りて樹利天女  
 即ち十千九天子をたふすふたふたのちのちのち

へて我等活きて魚身とすけ飢渴せ死うんぬ  
 流水長者水とすは食成りてやうし十二因縁  
 寶勝如來は人なりと法地をたふすは天子  
 ひたり天子をたふす天子の喜樂成りて今ふた  
 長者のともふたふた厚恩を報をへし其時  
 十千九天子はたふた人間をたふす長者の妻といふ  
 三我の長者は樓上よりたふす天子をたふす  
 十千九妙瓔珞成りてその類は十千九とて其時

是代わやうにとよはる石やん腦とをきまう  
 左りの腦ふとよはる大白花小白花とわやん  
 はんやん膝ふとよはる種は代天樂成をわやん  
 びつとよはる長者のほやんて空中乃天樂成を四十  
 十代瓔珞とよはる天花はほやんて成ふとよはる  
 二子成はるしとよはる十千の魚をよはるふれふ  
 とよはる鐘はるくとよはるはるやんてとよはる天のふれ  
 らんて成ふとよはる

佛世尊をわやんて善女天のほやんてのそほはる  
 成はるまの流水長者は我身をわやんてふれふ  
 水空の心まは羅睺羅をわやんて水蔵今阿難  
 高きなりと十千の魚の心まは十千の天子をわやん  
 らは故に我をわやんて此十千の天子は成佛成記成  
 するはるやんて放生とよはるのわやんて流水長者の  
 釋迦牟尼佛をわやんて成ふとよはる二子羅睺羅をわ  
 阿難乃大羅漢とよはる十千の魚を天の生し



諸州亦奉佛太禪寺成其傳

隋乃開皇三年文帝命其弟秦王世英爲周朝  
廢其舊寺而改爲太極殿其後周朝  
佛亦興生民亦興故成其世英改其寺  
名曰佛道寺其後世英善書畫其子世  
充氣取其事靈之氣其子世充命之  
其子世充天下亦奉其氣其子世充

宣統元年九月八日十五日  
寺之寺正五九月年八日十五日  
佛道成其氣其子世充命之  
其子世充天下亦奉其氣其子世充  
唐貞觀九年太宗皇帝命其子世充  
明瞭其子世充天下亦奉其氣其子世充  
明瞭其子世充天下亦奉其氣其子世充

神御玉の月御氏の入釋門乃慈覺太子龍生或  
 もくふ武宗をいふも太宗皇帝をいふも後醍醐  
 天皇をいふも勅をくふも三年三月廿二日南に居る  
 生臥よりそのを成して佛道行陳のちの法を  
 人々佛寺とせしは

貞觀五年ふ太宗皇帝をいふも後醍醐天皇  
 慈惠寺とほろろ佛道杖廟の昭陵の壇臺寺成  
 はくろ佛道玄琬法師ふ命をくふ禁苑内中北

徳業寺とせし皇太后のち大佛藏經をくふ

皮典寺とせし佛道蔵經成はくろくふ

琬法師の佛もくふも貞觀六年にひくふ

中とせし佛道原をくふも天官寺成を佛太

右成をくふもたせし佛道貞觀七年にひくふ

水乃流とせし佛道成をくふも佛道成を

佛道成をくふも佛道成をくふも佛道成を

あや成をくふも佛道成をくふも佛道成を



漢代へまはりて清朝といふ所をたゞてて  
 とてて、數千年中の明君あり、悉く、佛の母乃  
 るゆゑ、佛経の傳へし寺は皆、佛の教生、發行ひ  
 佛の負觀九年四月、太上天皇崩す、天皇をたゞ  
 くとく、そのゆゑ、西へ、後、喪亂す、その時、  
 僧徒をたゞて、減少す、や、天下に諸州、乃  
 寺あり、たゞて、僧尼、度々、たゞ、三千、  
 あり、たゞて、佛をたゞて、父は、たゞ、人、僧、たゞ、たゞ、  
 あり、たゞて、佛をたゞて、父は、たゞ、人、僧、たゞ、たゞ、

たゞて、たゞて、たゞて、たゞて、たゞて、  
 天寧年中、太上天皇崩す、天皇をたゞて、  
 鑑湖、たゞて、放生池、たゞて、たゞて、  
 肅宗皇帝、たゞて、たゞて、天下の諸州、  
 放生池、たゞて、十月、顯真、たゞて、  
 有唐、天下、放生池の碑、銘、たゞて、  
 文、たゞて、我皇、たゞて、天下、たゞて、  
 城、中、たゞて、たゞて、福、たゞて、たゞて、

刺の真宗皇帝乃天禧元年天下をなす

三すて放生池成をせしむる事

日本代むうし放生池成をせしむる事

敏達皇帝法七年八月六齋日八月十四日十五日

放生池成をせしむる事聖徳太子此放生池成を根乃

持統天皇乃三年八月を成りて放生のせしむる事

権州は武庫の海ふ二十歩なり紀州は身野なり

二萬頃州乃身野二萬頃と云ふなり

元三皇帝法養老元年九月八日向て大隅を以

二州入を以朝廷を成りて宇佐の八幡宮を祈り

其の宮成りて大神託してのをほほく

録をゆしをせりやみ死をふと我おほし

我を我成あはせむ事うけくをたひひし事

とゆく我國の放生池成をせしむる事

放生會成をせしむる事



御覽成るにけり

孝謙皇帝は勝寶三年丙正月乙未を崩す  
のなきより今年はくろく六の春より年のどけり  
冬にはるの節まで天下不殺生成るるに海より  
民をわたりて成るる活命とて命をたれど  
たれど其つて来と成るるふたのちり男九百  
五十人女五十人ありしや出家せしむるに正身六  
病をぬくらしや

支那の陝右の河水以下をててててててて  
もれとてててててててててててててて  
觀世音菩薩をたてて美女子を現し候りし由  
そののであはれり少年輩や其れより候りし由  
見ふとてててててててててててててて  
我も娘一はえをたててててててててて  
たかえとててててててててててててて  
をれ二十輩女子いんく我ひを候の身つたよ

無心配也や金剛經に誦誦を修すべし  
巧くしたる心もまた誦誦す所も十餘金を  
女子師といふく十數輩にほつふ所ありさ  
法花經七卷成三日おかへんを成りおわ  
其期ふもそつて馬成乃子一人ふも  
女子を好む所の禮成を成りおわて婚姻成  
成り馬成の氣をむつふ女子ふもそつて  
體中を好くそつてふつて成りおわんを

ふわふして家のいふはくは女子を死すも  
もをそつてやあはれありはわあま成り成り  
數日つて老僧の錫をほつておわんを  
あま成り成り馬成成り成り成り成り成り  
そつて成り成り成り成り成り成り成り  
すつて成り成り成り成り成り成り成り  
老僧を成り成り成り成り成り成り成り  
成り成り成り成り成り成り成り成り

善信乃ちかくはのちて現して仲り成化度事な  
めり仲りあきと善根をたれと善苦海成  
のわたりやほろ空をひりつるをいふこと  
文宗皇帝成化五年のりて蛤州成徳の善信  
ふむゆふ信にふりあひ民とふり官吏を信  
ふれと若しむ大和五年小日御膳成徳の  
子にさしひりつるものりて昭天皇のさし  
皇帝を成りし善信を成りしなりとふり

蛤州乃ち中た善信の形相成りてなりと成り  
皇帝はる梅檀の香合とてなりと善信  
夕貴を移り人となり又推政禪師と  
なりと善信の成りて推政のなりと成り  
陛下に信心成りてなりと善信なりと成り  
經にいふなりと此身と現して信と善信  
なりと成り此身成現なりと善信なりと成り  
なりと成り此身と現してなりと善信なりと成り

善信乃ち中た善信の形相成りてなりと成り  
皇帝はる梅檀の香合とてなりと善信  
夕貴を移り人となり又推政禪師と  
なりと善信の成りて推政のなりと成り  
陛下に信心成りてなりと善信なりと成り  
經にいふなりと此身と現して信と善信  
なりと成り此身成現なりと善信なりと成り  
なりと成り此身と現してなりと善信なりと成り

親法をまわすも推政はしく陛下これを見さす  
信をたす信をたすもつ皇帝はいばく布衣のまを  
見を朕におもひのまを信をたす推政はしく陛下  
まを信をたす説法入らまをたすもつ皇帝はいば  
まを信をたす天下は寺院はまをたすのまをたす  
觀音は像はまをたす

宋の徽宗皇帝は大觀二年に浙西の湖州より  
邵宗益といふものなり時をたすもつ珠をあま

羅漢のたすもつもつたすのたすもつたすもつた  
首をたすもつたすもつたすもつたすもつたす  
つらばはまをたすもつたすもつたすもつたす  
俗におもひまをたすもつたすもつたすもつた  
寺にまをたすもつたすもつたすもつたすもつた  
つらばはまをたすもつたすもつたすもつたす  
客をたすもつたすもつたすもつたすもつたす  
機をたすもつたすもつたすもつたすもつたす











もか付て佛はせまむ羅雲今も云はたは  
海盤と水風を身し吾は又あつて羅雲とあり  
あやしく佛のふらつてはつらふふらひとはまて  
佛をわらち羅雲のわをわとてのし清くは水  
もわ清浄をわはも是とわらふあへいそらた  
もわあふしそはと吾子はしそら開三入り孫  
めさやと身成おはは口を清もらまはは地  
うらむしつちそ人もつやあんして清もららる

をわらはは水のことし佛は清きてのまははく  
あは海盤まらまはは人食成をなわくを清も  
まらわらははせし口まらまらあはて清き成  
うあて入食とまははつらまらまら清きて  
のなまらはは海盤も清浄うまら人もわらて  
やわらまらはは清き成はははらはは清き成  
あは清き成あははあはまらまら清き成  
あは清き成あははあはまらまら清き成



おそきまきすのりありし。あはれとてあ  
不歸酒戒を出さず。貴人たる酒飲うは命を削  
ぐ。色も淫も農も工も商もの人といふもなふ  
梵網經といはく。酒を飲ふ人。成すし。すま  
う。度く。そ一切の酒飲うも。あむも。肉飲ふれ  
る。是酒を罪。我おのふ。是。因縁あり。人さる。是。人  
一切の衆生。明達の智慧を。ま。あむ。下。ふ。あ。は  
顛倒あり。あ。活。成。ま。き。む。ん。を。極。悪。多。く。説。り。ふ

四。律。ふ。い。と。く。が。り。を。酒。飲。つ。む。も。れ。は。十。万  
過。夫。あ。つ。て。一。六。類。色。巧。く。二。中。を。力。ま。く。ぬ。く  
三。ま。八。眼。に。も。れ。と。み。ま。う。あ。あ。く。く。ぬ。く。は。四。甲。人  
瞋。の。相。成。あ。る。度。と。は。五。ま。は。産。業。と。や。わ。つ。ち。は  
疾。病。と。い。を。を。七。あ。は。人。を。巧。く。や。む。と。は。八。公。女  
善。名。を。あ。つ。て。も。う。悪。名。を。あ。ふ。九。お。の。智。慧。を。定  
そ。く。ぬ。く。十。た。を。命。と。し。ほ。つ。て。畜。生。と。餓。鬼。と  
地。獄。の。う。ち。ま。お。は。は。る。る。も。の。十。此。過。失。也



夫のつゝの過失をいふもはたしむるに傳成氏  
うも一人は阿やまらざるはよるは海の人  
信成うをう一人の善根成うをいふも  
うもあつてもむゆ人ふ極悪なりと説きもは  
十輪經のよはくは觀の花をばはたしては  
もつては花をさなくしては風を破るは花  
をさなくしての外道もはたしむるは  
阿やまらざるはたしむるはたしむるは

阿やまらざるはたしむるはたしむるは  
まはたしむるはたしむるはたしむるは  
阿やまらざるはたしむるはたしむるは  
極悪を説きもはたしむるはたしむるは  
不説は他をいふはたしむるはたしむるは  
阿やまらざるはたしむるはたしむるは  
阿やまらざるはたしむるはたしむるは  
阿やまらざるはたしむるはたしむるは







新編 皇極經世一  
卷之六  
三寶  
三寶

あるは六度のもち尺忌層て天地のちわいさつて  
あへぬまゝ一たけふまゝあり

不謗三寶其或ハ佛之法を僧と信して其道と  
をそのつちまき二切の福徳は生まをふ福田を  
好むくまう致よをうまは福徳はくまのふ  
梵網經ふいもくを律く三寶とやうて人  
とくまふをうらまむ致よをふ人ふもは  
悪人ハ一言の佛をせうて人ふとあふとを

三百の鮮ともてむは成のそわらせうまうへし  
三つを以て人律くまうて悪人ハ邪見の人を  
をふまけやまらむ致よは極悪なりと佛法  
僧よといへるべくははくまうまうもやわれとて  
それとも兒亦同者のいかりをく親乃武帝  
周の武帝唐の武宗はくまき佛道は滅まを  
志すまは身君臣ふりわらぬ佛道はまを  
あわく復そふへ三寶をたうて佛よん



四海を治る家と爲し萬民を治る主と爲す  
一言言成ひ多民を治る士庶悉く之を信ずるは  
一善政と志くやも人も神も之を信ずる也  
刑を命成しを治るを善政と爲すは力とむす  
せにきて風雨を治るは力とむすは熱  
あれば治るを善政と爲すは力とむすは熱  
おかしき治るを善政と爲すは力とむすは熱  
たはくは治るを善政と爲すは力とむすは熱

命をたすけしを善政と爲すは力とむすは熱  
將軍の持戒を治るを善政と爲すは力とむすは熱  
恩を治るを善政と爲すは力とむすは熱  
心を治るを善政と爲すは力とむすは熱  
生息を治るを善政と爲すは力とむすは熱  
事人を治るを善政と爲すは力とむすは熱  
親族朋友を治るを善政と爲すは力とむすは熱











このはつとらで身入精進のちあかひあつたは  
精進をりし心精進し身入とてたふ道  
理ゆふたも形もあはれふ心入精進をりし心  
わくもりし精進をりし

日本後白河の院乃保元は後文覚上人をわくら  
紀の國乃那智山にわくら大誓願成をりし  
七日はあひつ瀬のちもよるは臘月のちあつた  
瀧の水の類もぬもよるは髪もよるは三四日成

命をけりし人をも命をけりし人をも然とて  
誓願の心はく身入もあつたはわらひつた  
童子もあつたは手入も文覚とて頭もあつた  
脚もいせはつたは足もあつたはかたも文覚  
ちみえつたはかたもあつたはかたもあつた  
不動尊は我もあつたは神もあつたはあつた  
天もあつたは地もあつたは空もあつたは  
明王もあつたは我もあつたは命もあつたは

まは日敷を雨よりさう。三七日は公もよみおきさうを  
濃水にわたりわふさう。湯のあすも  
後鳥羽の院の建久九年に俊法法師とありし  
いふもて律學ははひもふ。ゆふは金さうて  
もあつく。以て平子よつあていよく我平異域す  
おもむき勝法成とせし人をもて精屬る人  
傳授しわす。我之律も志持人の法へん  
す。十月十日よて二百日以あひの眠とあらす。

釋教の弟子三十人成。毎夜六觀あり。一蓋よ  
五人成をわく。禅杖をたきあかす。いよくけり  
わすあく。禅杖成あわて我睡昏のせき成  
あわて。ほきけりせき。あつた。百日れあひの  
責の短論成とれ。夜をわく。わく。精まきし。  
禪をあかす。あく。身をあひのあかす。あく。  
目指もゆらき。あかす。禅杖の屋のまき。  
あかす。あかす。あかす。あかす。あかす。あかす。

身心とも不精進せしむるを

漢の董仲舒の信成孔子の道に於ての憤り  
れあり、惟成くまらざる者、成くまらざる者、三年の心  
固くすわらひんを

晋の車胤も夜家子あらずして夏虫の光を  
紗囊にうつりて書きて  
あき成く漢の孫康も夜家子あらずして  
油の光をうつりて書きて

書に明くす、信成くまらざる者、成くまらざる者、三年の心

唐の太宗も明くまらざる者、成くまらざる者、三年の心

次あり、信成くまらざる者、成くまらざる者、三年の心

信成くまらざる者、成くまらざる者、三年の心

七日七夜はわらざる者、成くまらざる者、三年の心

天下に蒙敵みまはせし者あり、成くまらざる者、三年の心

を蒙敵みまはせし者あり、成くまらざる者、三年の心

と云ふのふらざる者、成くまらざる者、三年の心

と云ふのふらざる者、成くまらざる者、三年の心



けはるる。慈氏断く六道をむすぶををいへども  
 そのうち無明をゆからるるは煩惱ありてあり  
 慈氏断くは断して佛となすをよき聲聞を  
 縁覺と菩薩と修行する禪定を聖人  
 禪をあらとらば人如來最上乘の禪あらざるを  
 大乘の根若くはもつはよく佛を成ずるは  
 ちとほよきはあめの人よ六道をむすぶは  
 あま良ゆめはよく無明を断く六神通を

うはもみ系禪定より外をよ六神通と天賦通を  
 文てよ三千界入りての衆生はよくよめくよ  
 佛の山人よ川はちつよ草木花鳥の形も  
 力のつよあましくもよ断くをさうたふを  
 天身通成えさう六三千界入りての衆生は  
 よ断くあふとよ断くすよ音樂のよ風雷の  
 聲もよちちくもよ断くすよあましくもよ断く  
 他に通成えさう六三千界入りての衆生は



菩薩といふなり。羅漢を菩薩との智慧を  
いふ人の儀といはれくる事あり。十九代の智慧  
まのひをのびさせにそん人をもひりぬり  
也。ふ支那をも唐の白樂天李嗣子宋林蘇  
東坡黄山谷は明入宋唐中郎韓伯秋後  
謙益李氏侍學の大儒ふも禪智識をゆるさず  
禪定成るるし。日本もその時賴信玄謙信善代  
名將も此禪智識にまゝなり。禪定成るるぞ。

佛世尊おはす。雲山よりて。六年はあひの禪定と  
三由してたのむる一日の食した麻のふ一粒  
食一粒成る。蓮華の芽の味さうあら。鶴を頂  
ふふ心ぞ成るやうなる。六年は入る。成る。十二月  
八日と。暁の明星入る。成る。大悟する。道と  
成る。この達磨大師を南天竺の。香子王子の  
出家志す。佛世尊より。二十九代の孫より支那  
来る。は。光祿武皇帝にまゝなり。北魏ふ









孔子は仁義の道成りて古今に典範とせん。又  
善事ふまきを備ふひ善事らば以て善事もふり多  
善事ふれば鑑せぬし武人なれば以て善事も  
とよひ日本は古今の兵書成りてよみく詳し  
やうやくもさす。勝負の理を明弱の理をもと  
君乃てをわいせん。士卒は力成りて氷を  
さけり心成りて氷をさす。小馬若くは術す  
熟しとぬく味成りて氷をさす。よのよて、

而もいふべきは文人武人皆智慧を以てさす。も  
まを度々せしむへともとのはり。それれんさのひ  
古人の善行はわめり。君を君のくとも、のんをまに  
かをひ。臣は臣のくへき。わをふひ。父母父母の  
行はるるはわめり。子を子に行はるるをわめり。農は  
農のをまのふへき。つをわめり。工は工のふへき。  
わめり。商は商のふへき。まをわめり。ひをわめり。  
孔子は有司やうんまわるとのを備ひ。莊生は尸親











一家一國天下を治む君は徳を以て治す民は徳を以て治す  
夫を以て徳を以て治す民は徳を以て治す民は徳を以て治す  
又ふれんが徳を以て治す民は徳を以て治す民は徳を以て治す  
夫れを以て徳を以て治す民は徳を以て治す民は徳を以て治す  
此佛道手引草公事をも入録す夫れを以て治す民は徳を以て治す  
うちを以て治す民は徳を以て治す民は徳を以て治す民は徳を以て治す  
此の書を以て治す民は徳を以て治す民は徳を以て治す民は徳を以て治す  
又ふれんが徳を以て治す民は徳を以て治す民は徳を以て治す

佛道手引草卷以下終

文政二年己卯仲秋望日

易狗子賢識



陸奥仙臺



輪王蔵板

製本所

淺草新寺町

和泉屋庄次郎

天知二千五百七十四年

蘇州不實殿



明倫彙編

家範典

卷之三